

(様式1)

平成28年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果
(平成29年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成28年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成29年3月

農林水産部長 中村 保博

項目	実施結果
<p>1 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇食料産業パワーアップ</p> <p>○競争力を高める福井米づくり</p> <ul style="list-style-type: none">「ポストこしひかり」の現地実証栽培を県内25か所まで拡大して実施し、米の専門家による食味評価を行うことにより、候補を1種に絞り込みます。食や流通、マスメディアなどの専門家を集めた「ポストこしひかり」ブランド化戦略会議を6月に設置し、ブランド化戦略を策定します。農地の集積・集約を進め、100ha規模のメガファームへの規模拡大と経営力を向上します。 (平成27年度 3組織増 累計 8組織) <p>メガファーム数 4組織増 累計12組織</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>現地実証栽培圃を県内25か所に設置し、日本穀物検定協会の評価とともに、県民の皆様や料理人、米穀店主など食の専門家の評価を経て、「ポストこしひかり」を「越南291号」に決定しました。</p> <p>ポストこしひかりのブランド化戦略会議を6月に設置し、食の専門家や料理人、米の卸業者、出版関係者等から意見をいただきながら、生産から販売、PRまでの一体的なブランド化戦略を3月に策定しました。</p> <p>また、ブランド化へのスタートとして、コシヒカリ発祥の地福井のPRとあわせ名称を公募したところ、全国から10万件を超える応募がありました。</p> <p>地域や集落での話し合いを進め、農地を集積・集約した結果、小浜市松永地区や敦賀市沓見地区などで新たに4組織のメガファームを育成しました。</p> <p>また、7月に「ふくい農業経営力向上塾」を開校し、メガファームなど10経営体が、企業との連携や経営ノウハウを学び、今後の経営計画を作成しました。</p> <p>メガファーム数 4組織増 累計12組織</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○九頭竜川地域 農と水の振興ビジョンの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間かんがいと農薬の使用量を減らしたコシヒカリの生産を、パイプライン通水エリアの全域で実施します。 (平成27年度 953ha増 累計 1,828ha) <p>夜間かんがい生産面積 2,672ha 増 累計 4,500ha</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三里浜砂丘地でメロン、コカブ、ラッキョウ等に加えて、アスパラガスなどの新規品目の導入をすすめ、園芸生産を拡大します。 (平成27年度 10ha増 累計 148ha) <p>三里浜砂丘地園芸生産面積 12ha 増 累計 160ha</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本一の生産基盤を活かした農業について、教科書への採用の働きかけを行います。また、九頭竜川地域のパイプラインを、地域の児童の学習に活用します。(平成27年度 ー) <p>学習会の開催校数 41校増 累計 41校</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>パイプライン通水エリアのコシヒカリ栽培の全面積である4,527haにおいて、パイプラインの冷たくてきれいな水を活かした夜間かんがいを実施しました。この結果、コシヒカリの1等比率が県平均より2.8%高くなりました。 天日干し米やクリームソクローバー米を首都圏の百貨店やスーパーにおいて高価格で販売をしました。</p> <p>夜間かんがい生産面積 2,699ha 増 累計 4,527ha</p> <p>三里浜砂丘地において、メロン、コカブ、夏播ニンジン等の生産拡大に加え、新たにアスパラガス、ショウガ栽培を導入し、作付面積を15ha増の163haまで拡大しました。</p> <p>三里浜砂丘地園芸生産面積 15ha 増 累計 163ha</p> <p>教科書協会や出版社を訪問し、九頭竜川地域の最先端技術を活用した営農についての説明を行いました。12月には出版社による現地取材への対応を行いました。 教育委員会や各小学校へ学習会開催の提案を行い、福井市や坂井市など受益地内の41校で学習会を開催しました。</p> <p>学習会の開催校数 41校増 累計 41校</p>
<p>○福井の野菜・果物をもっと市場へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周年出荷を目指した大規模園芸施設でミディトマト、青ネギ等の生産を拡大し、関西中心に販売します。 (平成27年度 270t) <p>大規模園芸施設販売量 470t</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田地域において、ネギ、キャベツ等の生産を行う集落営農組織等を育成し、栽培面積、販売額を拡大します。 (平成27年度 栽培面積144ha) <p>集落園芸面積 50ha 増 累計 194ha</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>今年度から小浜市、若狭町で青ネギ、おおい町でイチゴが本格生産され、これまでに整備した7か所6.8haの大規模園芸施設の販売量は、475tに拡大しました。</p> <p>大規模園芸施設販売量 販売量 475t</p> <p>集落営農組織の園芸導入に必要な機械等の整備を支援し、新たにネギ、キャベツ等を生産する集落営農組織等を45組織育成し171組織となりました。また、栽培面積を57ha増の201haに拡大しました。</p> <p>集落園芸面積 57ha 増 累計 201ha</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>・ブドウの作付を拡大し贈答用のセット販売を行うなど、シャインマスカットや藤稔等の生産・販売を拡大します。 (平成27年度 37t)</p> <p style="text-align: right;">ブドウ販売量 60t</p> <p>・企業と共働して、地中熱や遠赤外線を使った施設園芸の冷暖房経費の低コスト化技術を研究・実証します。</p>	<p>シャインマスカット等の栽培面積は2ha増の13haとなり、直売や贈答用として61tが販売されました。また、出荷期間拡大のため、新たに9月収穫の6品種を導入しました。</p> <p style="text-align: right;">ブドウ販売量 61t</p> <p>積水化学工業と研究連携協定を結び、園芸研究センターにおいて地中熱を利用した施設園芸の省エネ暖房システムの共同実証をスタートさせました。</p>
<p>○「福井百歳やさい」の生産拡大</p> <p>・越前白茎ごぼう、菜おけ、吉川ナスなど「福井百歳やさい」の生産面積拡大を支援するとともに、直売所や福井ゆかりの店への販売に加え農家民宿等への食材提供を促進します。 (平成27年度 2.4ha増 累計12ha)</p> <p style="text-align: right;">生産面積 2.5ha増 累計14.5ha</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>河内赤かぶらについては、美山地区全域で作付けを推進し新たに20a拡大しました。山内かぶらは栽培講習会を通して作付けが20a拡大しました。 また、PR活動により県内の需要が拡大し、勝山水菜85a、越前白茎ごぼう65a、菜おけ55aと、それぞれ作付けが拡大しました。 なお、吉川ナス、山内かぶら、谷田部ねぎは地理的表示保護制度(GI)に登録されたことにより、福井ゆかりの店など首都圏への販路を拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">生産面積 2.6ha増 累計14.6ha</p>
<p>○畜産物の生産・販売拡大</p> <p>・若狭牛の導入支援や飼料用米の活用により、三ツ星若狭牛の生産・販売を拡大します。(平成27年度 2.5億円)</p> <p style="text-align: right;">三ツ星若狭牛販売額 2.7億円</p> <p>・卵も肉もおいしい新たな福井県産の鶏を農家で飼育・実証し、福井国体の開催までにブランド化を進めることにより、生産者の所得向上につなげます。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>飼料用米利用技術の普及等により認証頭数は昨年を上回る240頭となり、販売額は2割増の3億円を突破しました。三ツ星若狭牛の販路開拓を行い、県内を中心に取扱店舗数が93店舗に増加しました。</p> <p style="text-align: right;">三ツ星若狭牛販売額 3.0億円</p> <p>畜産試験場において、農家による飼育実証の結果をもとに、卵も肉もおいしい新しい地鶏品種を開発しました。4月に農家へ譲渡できるよう育成するとともに、平飼いとすることやエサに関することを盛り込んだ飼育管理マニュアルを作成しました。</p>
<p>○6次産業のスケールアップ</p> <p>・百貨店や専門家等と協力しながら、地域資源を活用した新商品の開発や改良を行うとともに、食品加工施設整備の支援等により、6次化商品の販売額を増やします。 (平成27年度 1.7億円)</p> <p style="text-align: right;">6次化商品の販売額 2.1億円</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>商品開発に関する研修会、6次産業化サポートセンターによる専門家の派遣や技術相談を行い、サトイモを使ったアイスやちそのゼリー、ウメのドライフルーツなど新たに26商品を開発し、これまでに開発した商品数が140になりました。 商品の求評会や商談会を開催し、販売額は2.3億円に増加しました。</p> <p style="text-align: right;">6次化商品の販売額 2.3億円</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇「里山里海ビジネス」の新展開 ○中山間産業の新スタイル</p> <p>・農地の維持管理が困難な中山間地域等においてJ A等による広域作業受託組織を育成し、耕作放棄を防ぎます。 (平成27年度 3組織増 累計4組織)</p> <p>広域作業受託組織数 2組織増 累計6組織</p> <p>・中山間地域へ収益性の高い施設園芸や、鳥獣被害の少ない果樹栽培を推進します。 (平成27年度 10か所、1ha)</p> <p>施設園芸、果樹導入箇所 13か所増 累計23か所 施設園芸、果樹導入面積 2ha増 累計3ha</p> <p>・特用林産物については、ジャンボしいたけ(香福茸)、菊炭など付加価値が高いものや、くず、コウゾ、ウルシなど伝統を支える品目を支援し、生産・販売を拡大します。 (平成27年度 5.7億円)</p> <p>特用林産物生産額 6.3億円</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>新たにJ A若狭、J A敦賀美方において広域作業受託組織が設立し、県内6 J Aの広域作業受託組織により中山間地域での水稻、大豆等の作業受託をのべ395ha行いました。</p> <p>広域作業受託組織数 2組織増 累計6組織</p> <p>大野市御給、越前町桜谷、高浜町鎌倉など県内8か所においてハウス整備の支援を行い、トマトやキュウリなど収益性の高い野菜への転換を進めました。鳥獣被害の少ない果樹栽培については、永平寺町轟、勝山市北谷町、福井市畠中町など県内5か所においてクルミなどの栽培を進めました。</p> <p>施設園芸、果樹導入箇所 13か所増 累計23か所 施設園芸、果樹導入面積 4ha増 累計5ha</p> <p>ジャンボしいたけ(香福茸)については、原木などの資材や生産技術研修会の開催に支援した結果、7名が生産を開始し、1月に初出荷しました。 菊炭については、昨年度整備した専用の炭窯により、9月から生産を開始するとともに、将来の原料を確保するために、クヌギ500本を植栽しました。 林業遺産にも認定されたくずについては、鯖サミットや若狭ソーデーマーチ等のイベントでPRを行いました。 また、越前和紙の原料となるコウゾ2,260本の植栽や、越前漆器の原料となるウルシ1,000本の植栽など、伝統技術の継承を支援しました。 その他、昨年度に整備した九頭竜まいたけ生産施設の本格稼働や、山の市場の整備と合わせた薪の増産など、特用林産物の生産・販売を拡大しました。</p> <p>特用林産物生産額 6.3億円</p>

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>○福井型・新グリーンツーリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニ農家レストラン、ミニ直売所、体験交流型農園、オーベルジュの整備を支援することにより、里山里海湖ビジネスを推進します。 (平成 27 年度 30 か所増 累計 44 か所) <p>ミニ農家レストラン等への整備支援 30 か所増 累計 74 か所</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁業体験メニューの拡充や設備改修等によりさとうみの宿の売上額を増加させます。 (平成 27 年度 37 億円) <p>さとうみの宿の売上額 38 億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内 3 か所に設定したトレイルコースでのイベントの開催や、県内各地で開催されるトレイルイベントを対象としたポイントラリーを実施します。また、ふるさと百景などの地域資源の活用による誘客を進めます。 (平成27年度 1千人) <p>トレイルコース利用者数 年間 1 万人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました</p> <p>誘客に必要な施設整備を支援するとともに、県内の体験施設や農家レストラン、直売所等を組み合わせたモデルツアー(5 コース)の商品化を進めました。</p> <p>ミニ農家レストラン等への整備支援 30 か所増 累計 74 か所</p> <p>釣り体験や魚さばきなどの体験メニューの新設・拡充、地魚を使ったランチの提供、リフォームなどの環境整備により、誘客の促進を図ったことによりさとうみの宿の売上げ額が増加しました。</p> <p>さとうみの宿の売上額 38.1 億円</p> <p>県内 3 箇所に設定したコースを活用して、トレイルイベント「わかさ三方五湖トレイル」と「朝倉トレイルラン 2016」を開催しました。 また、県内各地で開催された「若狭路トレイルラン」や「越知山泰澄トレイル」などのイベントを対象としたポイントラリーを実施するなど、トレイルによる誘客を進めました。</p> <p>トレイルコース利用者数 年間 1.2 万人</p>
<p>○鳥獣害の被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害の実態に応じた電気柵・金網柵等の整備や地域ぐるみの追い払い活動等を行い、被害防止を促進し、農作物被害面積を減らします。 (平成 27 年度 241ha) <p>鳥獣による農作物被害面積 200ha 以下</p> <ul style="list-style-type: none"> シカの捕獲技術の向上を図るための研修会の開催や優良捕獲者の登録・派遣を行う人材バンクを設置することで、捕獲体制を強化し、有害鳥獣捕獲頭数を増やします。 (平成 27 年度 16,679 頭) <p>有害鳥獣捕獲頭数 19,000 頭</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>集落リーダー研修会等を通じて集落全体で侵入防止柵の管理や追い払い活動などの鳥獣害対策を進めるとともに、獣種に応じて金網柵や電気柵、ネット柵を 8.7km (見込) 整備し、被害防止に努めました。</p> <p>鳥獣による農作物被害面積 実績見込 200ha 以下</p> <p>くくりわな猟と銃猟の実地研修によるシカ捕獲技術の向上や、優良捕獲者を派遣する人材バンクの登録者を増やすため、猟友会会員等を対象とした研修を実施し、捕獲体制の強化に努めました。</p> <p>有害鳥獣捕獲頭数 実績見込 19,000 頭</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】</p> <p>○日本でいちばんおいしい学校給食へ</p> <p>・学校給食畑での畑作体験の促進や和食・郷土料理を取り入れた地産地消給食の導入を進めます。また、子供たちのごはん食を中心とした食生活と農作業を手伝う環境づくりを進め、食と農業に対する認識を深めます。</p> <p>(平成27年度 132校)</p> <p style="text-align: right;">学校給食畑実施校数 150校</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>畑作体験のさらなる促進に向け、市町などの関係機関と協力し、学校と生産者のマッチングを行い、学校給食畑の実施小学校は150校に増えました。</p> <p>また、「地場産100%和食給食」を11月24日の和食の日に加え、6月の食育月間にも県内全小中学校で実施しました。実施にあたり県内市場関係者等との会議を開催し、地場産品の県域流通に努めたことにより、地場産食材使用率は45%に上昇しました。</p> <p>子供たちに農業の大切さや魅力を伝えるため、「ふくいのおぼろでスマイル写真コンテスト」を実施し、86点の応募がありました。</p> <p style="text-align: right;">学校給食畑実施校数 150校</p>
<p>○福井ゆかりの店ネットワーク</p> <p>・大都市圏で県産食材のPRや、販路拡大につながる「福井ゆかりの店」を開拓します。</p> <p>(平成27年度 178店)</p> <p style="text-align: right;">福井ゆかりの店 累計200店</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>店舗への営業活動により、203店舗(首都圏137店、関西圏66店)が「福井ゆかりの店」に登録しました。営業活動に加え、レストランのシェフ等の県産食材への理解を深めてもらう産地視察を行ったことにより、大都市圏で発信力のあるレストランにおける県産食材を使用した「福井フェア」の開催につながりました。</p> <p style="text-align: right;">福井ゆかりの店 累計203店</p>
<p>○海外に売り込む「福井の食」</p> <p>・「ふくい食輸出サポートセンター」を新たに設置し、農林水産業、商工、観光の関係者が一体となってシンガポールや香港、台湾などで食文化提案会や商談会、物産展を開催します。本県の食材を取り扱う飲食店を開拓し、食品輸出額を拡大します。</p> <p>(平成27年度 飲食店8店増 累計10店)</p> <p style="text-align: right;">県産食材取扱い飲食店数 累計17店</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>4月に設置した「ふくい食輸出サポートセンター」が中心となり、農漁業団体、経済団体、観光団体、県内の食品・工芸品事業者16社と一体となって、11月にシンガポールと香港で食文化提案会・商談会を開催しました。その結果、甘えびや越のルビー、日本酒などの取引が始まり、これらの県産食材を使用する飲食店を新たに7店開拓しました。</p> <p style="text-align: right;">県産食材取扱い飲食店数 7店増 累計17店</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇もうかる漁業へ転換加速 ○山里海湖の「宝」を福井ブランドへ</p> <ul style="list-style-type: none"> 規格、品質で厳選した「越前がに 極」の新たなタグを作成し、最上級ブランドとしての地位を確立します。 日本一の生産地を目標とし、国内外で需要の高いトラウトサーモンの種苗生産施設、大型養殖施設の整備を支援します。 (平成27年度 1か所) <p>トラウトサーモンの大型養殖施設箇所数 1か所増 累計3か所</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ダイナミックな越前がに漁の様子をドローンにより撮影したPR動画を制作し、解禁日からの1週間、都内の大型ビジョンにおいて放映するとともに、越前がにの黄色いタグにQRコードを付け、誰でも手軽にPR動画をみられるようにしました。全国放送のテレビ番組で紹介されるなど、知名度の向上につながり、ブランド力が向上しました。</p> <p>大野市宝慶寺の種苗生産施設から、県産トラウトサーモン稚魚の出荷量を拡大しました。 大型円形生簀については、福井市鷹巣沖、おおい町大島沖に続き、新たに小浜市西小川沖に設置し、11月から養殖を開始しました。</p> <p>トラウトサーモンの大型養殖施設箇所数 1か所増 累計3か所</p>
<p>○地魚の加工・流通拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 敦賀市に完成した水産加工施設から、地魚を利用したフィレなどの冷凍加工品を出荷するとともに、福井ゆかりの店や首都圏での商談会等を活用し加工品販売額を増加させます。 (平成27年度 375億円) <p>加工品販売額 380億円</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>水産加工施設では、トラウトサーモンやサゴシ、トビウオ等をフィレなどに加工し、学校給食や県内外の量販店に供給しました。 また、首都圏での商談会を活用して、福井ゆかりの店等へ水産加工品を売り込みました。</p> <p>加工品販売額 381億円</p>
<p>○水産学術産業拠点設置を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本構想検討委員会を年4回開催し、資源管理や新たな生産・加工技術の研究、国際的な視野を持つ人材の育成を行う水産学術産業拠点の設置に向けた基本構想を策定します。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>基本構想検討委員会を4回(5、8、10、1月)開催し、拠点で実施する研究内容や産業支援、人材育成などについて協議し、3月に基本構想を策定しました。 今後は、基本構想に基づき、具体的な研究課題の検討や共同研究を実施するとともに、新組織設立準備や必要施設の整備に着手します。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇森を市場にもっと直結 ○県産材をフル活用</p> <p>・コミュニティ林業や民有林と県有林が一体となった木材生産団地を拡大し、山ぎわ等の間伐を進め、県産材の生産を拡大します。また、主要道路や景勝地周辺等での間伐を進めます。 (平成27年度20集落増 累計75集落)</p> <p>コミュニティ林業 20集落増 累計95集落</p> <p>・人工乾燥施設の導入を毎年1基、3年間(H27～29)支援し、工務店が求める品質の確かな人工乾燥材の生産を増やし、県産柱材の利用を拡大します。 (平成27年度 3,350 m³)</p> <p>県産柱材の利用 4,800 m³</p> <p>・A材の需要を開拓するため、商業施設や児童施設での木造・木質化やマンション内装材、オフィス家具等、新たに開発した県産材製品の都市圏などへの販路開拓を進めます。</p> <p>・林地残材や薪等を販売できる「山の市場」を拡大するとともに、自伐林家の育成を通じ利用者を増加させます。また、イベントの開催により都市部との交流も進めます。 (平成27年度 販売額 150万円)</p> <p>山の市場販売額 400万円</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>コミュニティ林業については、集落での説明会(39回)や集落の代表者等を対象としたリーダー研修会(4地区)などにより、20集落で木材生産組合が設立され、昨年度の2割増となる3万7千m³(3月末)の間伐材が生産されました。 民有林と県有林が一体となった木材生産団地については現地研修会の開催などにより10か所増え、20か所に拡大しました。 また、吉崎御坊に向かう国道沿いや一乗滝周辺県道沿いなどでの間伐を実施しました。</p> <p>コミュニティ林業 20集落増 累計95集落</p> <p>県産材の利用拡大については、製材所が設立した協同組合で2基目となる人工乾燥機を整備し、一元的に乾燥を行った結果、生産量が昨年に比べ4割増加しました。</p> <p>小浜市の箸販売店や越前市の飲食店、あわら市の児童施設などにおいて、木造・木質化を進めました。 オフィス家具を共同開発した大手家具メーカー等と県産材の利用推進に関する協定を締結するとともに、マンション内装材など県産材製品と併せて県内外のイベントに出展し、金融機関等への販売を進めました。</p> <p>山の市場を新たに大野市と勝山市、越前町、坂井市に設置し、自伐林家に対する伐採講習や林地残材の定期的な買取り等を進めた結果、販売額は970万円になりました。 また、山の市場での農産物や薪などを販売するイベントに、都市部等からのべ230名が参加するなど交流も促進しました。</p> <p>山の市場販売額 970万円</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>・山から搬出した間伐材をA、B、C材に選別、効率的に出荷するためのウッドターミナル等を整備し、流通の低コスト化により木質バイオマスへの安定供給を着実に進めます。 (平成27年度 取扱量 10,000 m³)</p> <p style="text-align: center;">ウッドターミナル取扱量 35,000 m³</p> <p>・GPSを活用した境界の測量等に対して支援し、山ぎわの森林境界の確認を加速します。(平成27年度 ー)</p> <p style="text-align: center;">森林境界の確認 1,000ha</p>	<p>ウッドターミナル等については、9月に大野市に新たに整備し、間伐材A、B、C材の仕分けに加え、大型車で合板工場や木質バイオマス発電施設へ直送するなど、流通が効率化されました。</p> <p style="text-align: center;">ウッドターミナル取扱量 38,000 m³</p> <p>集落座談会やイベントでのPR、市町や森林組合職員等を対象とした研修の実施等により事業推進に努め、GPSを活用した山ぎわの森林境界の確認を進めました。</p> <p style="text-align: center;">森林境界の確認 1,600ha</p>
<p>◇産業人材の育成・誘致システム ○県内外からの誘致を強化</p> <p>・県内外での就労相談会や高校等訪問を実施し、UIターン者を対象とした研修や奨励金制度のPRにより、県内外から人材を確保します。</p> <p>・直売所や地域の祭りへの参加、レクリエーションなど、県内外の研修生が楽しめるプログラムを実施します。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>農業系大学や専門学校、ハローワークなどの就業斡旋機関、食や農林水産業関連の出版社を訪問するなど都市圏を中心に誘致活動を展開しました。</p> <p>また、東京、大阪、名古屋等において、就業誘致セミナーや相談会を開催するとともに、カレッジの研修内容を実感できるバスツアーやオープンカレッジを実施し、就業環境や独自の研修制度、支援策を紹介しました。</p> <p>さらに県内の高校生に対する就業説明会などを実施するなど、若い世代や県内外からの新規就業者の確保を進めました。</p> <p>これらの誘致活動の結果、園芸カレッジには、新規就農コースの第4期生として県外からの20人を含む30人の入校生を確保しました。</p> <p>東京丸の内で開催される「丸の内行幸マルシェ」やふくい味の祭典での直売会、総合グリーンセンターでのイベントにおいて農産物等を販売し、消費者との交流を行いました。</p> <p>また県外先進地視察をはじめ、炭焼きの体験等、研修生が楽しめるプログラムを実施しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○人材育成カレッジなど研修体制を充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸カレッジの実践研修や県独自の給付金の活用により、生産技術や経営能力を有する新規就農者を確保します。 ・農業系高校などに対する最先端技術の出前講座や体験学習により、将来の就農に向けた意識付けを行います。 (平成27年度 80人) <p style="text-align: right;">新規就農者数 90人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくい農業ビジネスセンターを開設し、小規模から大規模に至る全ての農業者を対象とした様々な研修や異業種人材の交流を通して、メガファームの経営者や、新たな農業ビジネスを実践する人材を育成します。 (平成27年度 ー) <p style="text-align: right;">農業ビジネスの人材育成 40人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくい水産カレッジの運営や短期研修制度、定着資金貸付制度を強化することで、新規漁業就業者を確保します。 (平成27年度 21人) <p style="text-align: right;">新規漁業就業者数 20人 累計 41人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくい林業カレッジを開設し、若い世代の人材を全国から募り、伐採・搬出技術や林業機械の資格取得のための研修などを通じて、新規林業就業者を確保・育成します。 (平成27年度 40人) <p style="text-align: right;">新規就業者 40人 累計 80人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ふくい園芸カレッジでは、即戦力の新規就農者を育成するため、就農希望者を対象に実践を中心とした研修を実施し、30名を育成しました。また、大規模施設園芸希望者3名を対象にICTを活用した技術習得研修を実施しました。その他、県独自の支援として、45歳以上の県外者への給付金拡充等により、今年度は県外からの20人を含む91人(見込)が本県で就農しました。</p> <p>農業系高校3校に対しては、果樹の栽培技術について3回の出前講座を行い70名が受講しました。また、農業試験場においてナシの摘果体験学習等を実施し、述べ205名の受講があり、将来の就農に向けた意識付けを行いました。</p> <p style="text-align: right;">新規就農者数 91人増 累計 171人</p> <p>4月に開所したふくい農業ビジネスセンターでは、農家レストランや農家民宿の開業等に向け、経営方法や誘客対策を学ぶ里山里海湖ビジネス研修を開催し、人材の育成を行いました。</p> <p>また、大規模経営者の経営能力を向上するふくい農業経営力向上塾を開催し、メガファームの経営者の育成を行いました。</p> <p style="text-align: right;">農業ビジネスの人材育成 64人</p> <p>平成28年度は水産カレッジに7名が入校し、研修を実施するとともに、就業希望者に対して漁業体験研修等を実施し、就業に結び付けました。</p> <p style="text-align: right;">新規漁業就業者数 21人増 累計 42人</p> <p>昨年5月にふくい林業カレッジを開設し、県外2名を含む9人の入校者に対し、林業に関する知識や技術の習得、資格取得のための研修を実施するなど、新規就業者の確保・育成を進めました。</p> <p style="text-align: right;">新規就業者 41人増 累計 81人</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>3 日本一の安全・安心 ◇あらゆる災害対応を迅速第一 ○ハード・ソフトの県土強靱化 ・地元と共働して農業水利施設の点検・管理体制を強化し、災害を未然に防止するとともに機能診断に基づく機能保全計画を策定し、施設の長寿命化対策を徹底します。 (平成27年度 46施設増 累計 280施設)</p> <p>機能保全計画策定施設数 50 施設増 累計 330 施設</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>新たに農業水利施設50施設について機能診断を行い、施設の老朽化の状況を把握しました。 また、安全・安心を確保するための対策を適切に行うため、機能診断を行った施設について、機能保全計画の策定を同時に行い長寿命化対策の推進を行いました。</p> <p>機能保全計画策定施設数 50 施設増 累計 330 施設</p>
<p>4 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に ◇元気な里山里海湖 ○福井の豊かな里山里海湖を次世代に ・水田魚道などの生態系保全や植栽などの農村景観保全に取り組む集落数を拡大し、豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に繋げます。 (平成27年度 168集落増 累計 718集落)</p> <p>農村環境保全取組み集落数 142 集落増 累計 860 集落</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>市町、多面的機能発揮推進協議会と共働で農村環境保全に関する取組みの促しや生態系保全に関する講義を取り入れた研修会を開催したことにより、活動内容の高度化が進みました。</p> <p>農村環境保全取組み集落数 146 集落増 累計 864 集落</p>
<p>5 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に ◇県民総参加の福井国体【部局連携】 ○花づくり活動の推進 ・国体会場等へのアクセス道路沿い等において、花や花木を植栽する花の回廊づくりを全市町で進めます。 ・みどりと花の県民運動大会を、平成29年度に本県で開催する全国花のまちづくり大会のプレ大会と位置づけ、規模を拡大して実施し、国体開催に向けた花づくり活動の機運向上につなげます。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>花の回廊づくりとして、全市町において花や花木の植栽を開始しました。特に鯖江市や美浜町など県内6か所において、それぞれ約1kmにわたる植栽を実施しました。</p> <p>みどりと花の県民運動大会では、花や造園関係の団体に呼びかけ出店を増加させるなど、規模を拡大して開催し、25,000人を集客しました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
 or 目標を達成しました。(さらに強化します)(例:数値目標を達成したが、課題が残るもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)